下妻市における可視化の活用について

茨城県　下妻市　都市整備課

1 .はじめに

下妻市の現状

都市再生整備計画事業

・国土交通省の社会資本整備総合交付金を活用し、「地域の活性化及び市街地再生によるにぎわいのある街づくり」を達成するため、平成29年にまちなか広場「waiwaiドームしもつま」と観光交流センター「さん歩の駅サンSUNさぬま」を整備した。

地方再生コンパクトシティモデル都市として選定されている。（全国77都市応募のうち32都市が選定。）

・平成30年度に「第13回まち交大賞」を受賞。

都市計画

・市内全域が都市計画区域内、線引きは行っていない。
・平成30年度に下妻市立地適正化計画を策定。

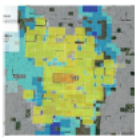
2.庁内での活用

様々な部署の職員へシステムの説明

・端末を操作しながら、可視化サイトを見てもらいました。

都市整備課内で使い方を説明している様子。

部署の枠を超えた同世代の職員へ使い方を説明している様子。



その中でも、一番反響が大きかった組み合わせ
「浸水想定区域×夜間人口」×「人口分布の経年劣化」

補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Google Earthを使用

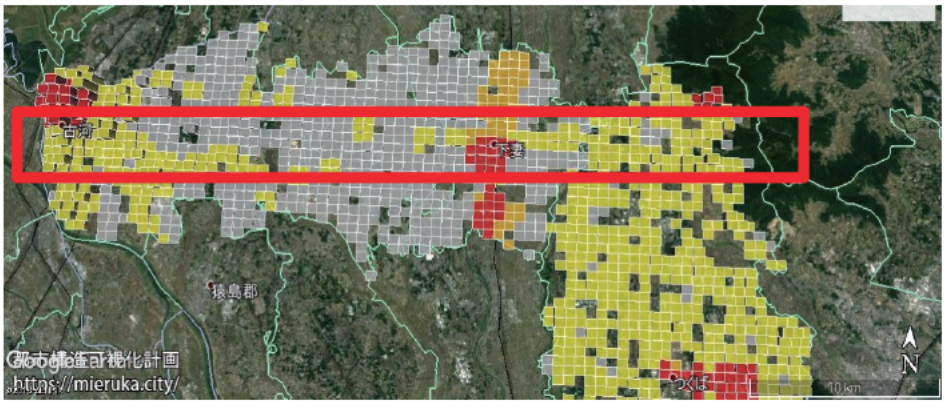
3.可視化に対しての意見

可視化を体験して出た意見

・都市構造可視化のことを初めて知った。（見た）　※大多数
・メッシュを細かくできれば、より詳細なデータ取りに活用できるかもしれない。
・メッシュの色の変更等のカスタマイズが可能になれば、資料として使いやすくなると思う。
・人口の増減について、動いて見えるところが分かりやすい。
・広域でデータを見れるのが利点だと思う。
・３Dマウスが使いにくい。
・例えば、高齢者の買い物サービスの検討に使えるのではないか。
・可視化できる資料が増えると、組み合わせの幅が広がり、より使いやすくなると思う。

4.広域で見た公共交通と人口分布の関係（バス）

国道125線沿いの自治体との比較



補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Google Earthを使用

・国道125線沿いのつくば市～古河市と比較。

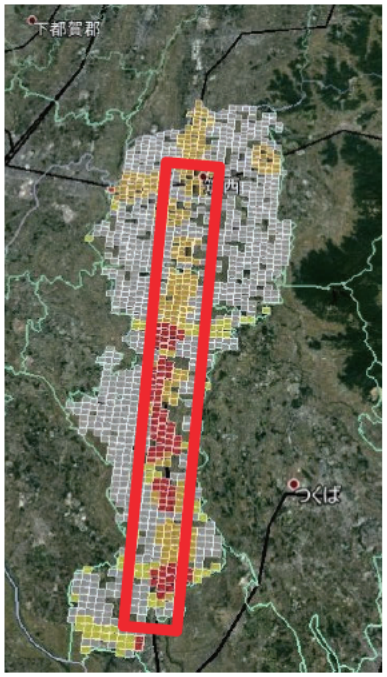
⇒つくば市～下妻市間の125線沿いが、バス利用圏に該当する。
⇒つくば市と下妻市間との広域のバス事業は効果があるかも？

5.広域で見た公共交通と人口分布の関係（鉄道）

関東鉄道常総線沿線の自治体との比較

・単線になる下館駅～水海道駅間の自治体の様子を可視化。
・下妻市～常総市間の線路沿いが電車・バス利用圏となっていることが読み取れる。

⇒例として、高齢者と公共交通を絡めたサービス展開に期待が出来るかも？



補注：都市構造可視化計画、地図は©2018 ZENRIN、Image Landsat / Copernicus、Google Earthを使用

6.まとめ

下妻市での可視化の活用場面

想定される活用方法

- 高齢者支援に係る資料
- 公共交通に係る計画策定に係る資料
- 防災関連に係る資料
- 教育部門での活用（学校で端末を触ることで地域の現状を知る）
- 既存GISサービスとの連携や、オープンデータとの連携が可能になれば活用の幅が広がると思われる。

課題

- 引き続きサービスを活用するには、機材の調達が必要
- インターネット環境の整備（庁内のネットワーク整備）
- 端末の操作が特定の職員になることが懸念される。

茨城県下妻市

都市の紹介

下妻市イメージキャラクター
シモンちゃん

- 深田恭子と、土屋アンナが主演し平成16年に公開された映画「下妻物語」の舞台
- 東京都心から60km圏内の茨城県西南部に位置し、東に筑波研究学園都市が隣接
- 人口は約４万２千人、平坦な地形で市域は80.88㎢中央に茨城百景の砂沼（砂沼広域公園）があり、西部を鬼怒川、東部を小貝川が南流
- かつては万葉集や風土記にも詠まれた風景が広がる風光明媚な地域。小貝川ふれあい公園から見る　「ダイヤモンド筑波（筑波山頂から日の出が顔を出す瞬間）」は茨城の絶景とされている
- 昭和の合併により市制が施行され、平成18年1月1日に千代川村と合併して現在の下妻市が誕生